

安全研会報

全国学校安全教育研究会 会報 NO.10
東京都学校安全教育研究会 会報 NO.45

発行 全国学校安全教育研究会
会長 木間 東平



「安全研会報」発行への思い

全国学校安全教育研究会会長
東京都葛飾区立柴又小学校長 木間 東平

今年度は、新型コロナウイルスに翻弄された一年でした。本校、葛飾区立柴又小学校を会場に開催予定であった「第45回全国・東京都学校安全教育研究大会」は、令和3年度に延期しました。本研究会の活動もほとんど中止を余儀なくされました。

そういう中、この「会報」だけは、全国の幼稚園・こども園、小学校、中学校、高等学校に、改めて安全教育の必要性を伝えたいと発行に至りました。新型コロナウイルス感染予防については、幼稚園・こども園、小学校、中学校、高等学校などそれぞれの校園種に応じた対応が進められたことでしょう。この会報でも、幼稚園、小学校、中学校で行われた新型コロナウイルス感染予防の取組の一例を載せました。

また、この間も、児童生徒の交通事故、学校での熱中症事故、校内への不審者侵入事件など、児童生徒の安全を脅かす事例が報告され、それぞれの学校において、その指導が行われたことと思います。さらに、東日本大震災から10年、大阪教育大学附属池田小学校事件から20年という年を迎え、この大災害からの教訓を考える記事も掲載しました。この会報が、お読みいただいた皆様の安全教育を考える一助になれば幸いです。

本研究会はこれからも、研究主題「自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成—危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために—」を踏まえ、児童生徒に自らの危険予測能力、危険回避能力を育成するための指導の在り方を追及していきます。



新しい生活様式を踏まえた学校安全教育の推進

東京都学校安全教育研究会会長
東京都葛飾区立花の木小学校長 伊藤 進

当たり前に思っていたことがちょっとしたことで当たり前ではなくなってしまうということはこの1年間でたくさん経験しました。新型コロナウイルス感染症の拡大によって世界中の日常が一変してしまいました。学校現場においても「新しい生活様式」を意識しながら様々な対策を行ってきたことと思います。ほとんどの学校行事や地域の取り組みが中止になり、毎日の授業をどのようにしたら子供たちが生き生きと取り組めるのか、模索しながら進めている状態です。そんな中でも「生活安全」「交通安全」「災害安全」についてこれまで培ってきた安全教育をもとにして、「新しい生活様式」に準じた安全教育が求められています。三密を避けること、手洗いの励行、マスク着用などの新型コロナウイルス対策を行いながら、各校で工夫して安全教育が進められています。一例を挙げると、700名近い児童が在籍する本校では、全校児童全員が一堂に集まることができないために、避難訓練の実施方法を変更しました。地震を想定した避難訓練では机の下などに入る一次避難の後、これまでは校庭に避難していたものを放送で校長や担当からの話を聞くというかたちで全体では終わりにして、その後で1・2年生のみ校庭に避難するという方法を行いました。経験の少ない低学年の児童のみ実際に校庭に避難したわけです。今後も感染症拡大の状況やワクチン・薬の開発状況によって対応が変わってくるのが予想されます。ただ、よく考えると、そのときの状況によって柔軟に対応しながら、児童の安全を守るための最善の方法を考えていくことはいつの時代でも必要なことです。いつでも、どこでも、どんな状況でも自分で考えて自分の安全を守れるような児童を育成していきたいものです。